

REFINITIV. リフィニティブ

高校生向け
資産
形成
がわかる



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい
投信 なるほど
リップパー

知らないと怖い金利の仕組み 雪だるま式に膨れあがることも

お金と上手につき合うために知っておきたい知識の一つに「金利」があります。高校生の友だち同士、お金を貸し借りするのは感心しませんが「利子をつけて返してよ」なんて、冗談を言い合うことがありますよね。利子は、利息ともいい、お金の貸し借りに必要な手数料のようなもの。貸した人が、借りた人から受け取る「お金のレンタル料」と考えてもよいでしょう。

「預けるお金」と書きますが、預金は私たちが銀行にお金を貸すことです。だから銀行から利子がもらえるのです。預金に対する利子の割合を「金利」と呼びます。金利は、とくに断りがなければ1年あたりの利率で表し、これを「年利」といいます。

例えば年利1%なら、100万円の元本に対して、1年で

1万円の利子がつきます。預金やローンの期間が違ってても比較しやすいように、金利は年利に換算するのが一般的。6カ月の定期預金の金利が年利1%だとすると、100万円を預けると利子は5000円です。1年で1万円の利子は、半年だと半額だからです。ローンの金利も、基本的には年利で表示されます。

利子の計算方法には「単利」と「複利」の2タイプがあります。単利の利子は、元本に利率をかけて金額を計算します。一方、複利は、ついた利子をその都度元本に加えます。次の利子もまた次の元本に含めて計算し、加えた利子の分、元本がどんどん大きくなるので、同じ利率でも利子は多くなります。

1年後に利子を元本に加えるのは年複利、半年ごとに加えるのは半年複利です。

単利と複利の違い

年間の利率を1%として100万円の元本を3年間預ける。税金は考慮しない

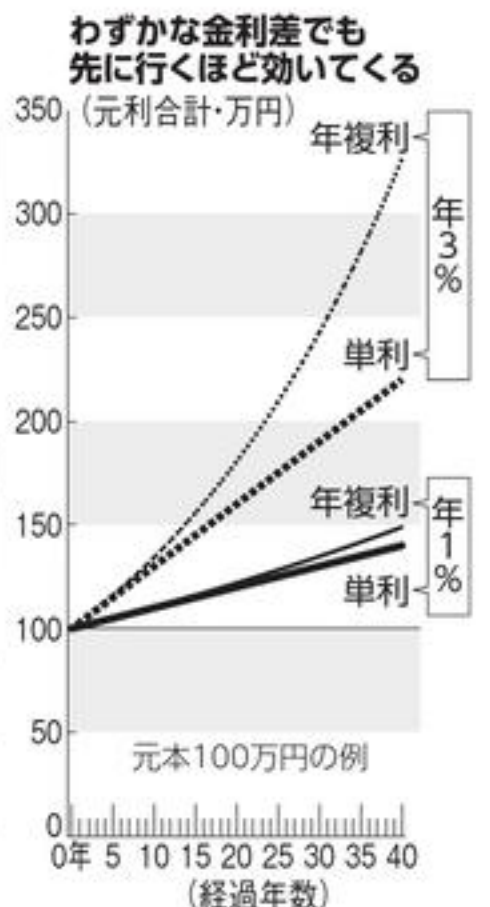
単利
元本だけに対して、繰り返し利子をつける方法

元本100万円×1%=1万円(×3年分)
※1万円の利子が毎年計3回つく
《元本と利子の最終合計》
103万円

複利(年複利の場合)
ついた利子を元本に加え、翌年の利子を計算する方法

《1年目》
元本100万円×1%=1万円
《2年目》
101万円×1%=1万0100円
《3年目》
102万0100円×1%=1万0201円
《元本と利子の最終合計》
103万0301円

るのは半年複利です。表の例は、単利も複利も利率1%ですが、複利の場合、利子は3年間で3万0301円。元本100万円の3.0301%です。これを3年で割った年平均利回りは、約1.01%です。利回りは、元本に対して最終的に増えた金額の割合。複利では雪だるま式に元本と利子(元利)の合計が増え、年利



1%より高い年利回りになるのです。単利と複利では、期間が長いほど元利合計の差が開きます。また、利率が高いほど、差は大きくなります。グラフ。そしてこれは、お金を借りる場合の利子でも同じこと。複利のローンでは、返済する総額が怖いほど膨らんでしまうので注意しましょう。